

第57回日本小児保健学会 シンポジウム

子どものこころを育むために～新たな子育て支援の試み～

子育て支援の現場から「迎える支援」と「出向く支援」
そして新たな取り組みへ

椎谷 照美 (にいつ子育て支援センター育ちの森館長)

育ちの森は2002年4月に開館しました。利用対象者は、入園前のお子さんと保護者です。

指定管理者として、特定非営利活動法人ヒューマン・エイド22が管理運営しています。

地域子育て支援拠点事業センター型は保育園併設型と独立型がありますが、育ちの森は独立型で面積は413.15m²です。

子育て支援の現場から見えてくる課題や現在育ちの森で行っている事業の取り組み、相談体制などを写真を交えてご紹介します。

育ちの森では、交流・保育・相談・情報提供など多岐に渡る事業を行っています。

年2回利用者アンケートを実施し利用者の要望やリクエストなど可能な限り迅速に対応しています。

アンケートで「育ちの森に来たいとおもった動機」の回答では、1位が「のびのび遊ばせたい」でした。手遊びを知りたい、友だちをつくりたい、リフレッシュ

にいつ子育て支援センター「育ちの森」



育ちの森へようこそ！



「育ちの森」事業

<交流事業>

- あそびの広場
- スポットタイム フリー ベビー
- 絵本
- 限定日
- イベント

<保育>

- 一時預かり
- 保育ルーム

<セミナー>

- 子育てセミナー
- リフレッシュなど

<相談>

- <情報提供>
- <サークル支援>
- <学校との連携>
- <視察>
- <小さな森の広場>

したいなど利用目的はさまざまです。より親子で楽しんでもらうために、あそびの広場やスポットタイムの充実心がけています。

プレイルームでは、保護者と子どもが楽しく遊べる場を提供しています。

交流事業 あそびの広場

のびのび遊べるスペースに子どもたちが楽しめるおもちゃを用意しています。



自由に遊んだり友だちと交流したりします。スタッフの中で9名のおもちゃインストラクター、1名のおもちゃコンサルタントマスターがいます。おもちゃの選定や遊び方などを伝えます。木のおもちゃが多くあり、積み木や木のレールなど親や友だちと楽しく遊んでいます。おもちゃは、人と人を結ぶコミュニケーションツールになっています。

交流事業 あそびの広場 スポットタイム フリー



スポットタイムでは、スタッフが親子で楽しめるさまざまな遊びを提供しています。

季節の歌をうたったり、手遊びや体操、合奏などのメニューがあります。

スポットタイムは午前、午後各1回行います。スポットタイムは、フリーの日、ベビーの日で内容が違います。

週3回、1歳7か月までのお子さん対象のベビーの日があります。スポットタイムでは、自己紹介ゲームやふれあい遊びなどを行います。歩き始める前のお子さんは公園などに行くことも少なく、周りに友だちがいない家で母親と2人で過ごしがちの方もいます。ベビーの日を設けることで同じ月齢のお子さんとお会いできます。お子さんにつけてもらう名札は学年で色が違いますので、話しのきっかけ作りにもなります。年齢の制限をすることで安心して自由にハイハイしたり寝返りできます。

スポットタイムは、強制はしません。自由参加です。ゆっくり過ごしたいとかスタッフに相談したいなど、利用目的はさまざまです。

土曜日は、父親の参加も多いです。

限定日は、同じ学年のお子さんのみ入館できる日を月1回開催しています。同じ学年のお子さん同士ならではの遊びを取り入れ、保護者同士共通の悩みなど話せるサロンも随時行っています。

季節のイベント

季節を感じるイベントを用意しています。



イベントでは、季節にあわせた内容で実施しています。七夕イベントではスタッフ全員浴衣で迎えます。子どもたちは甚平、母親のなかには浴衣で来られる方もいます。季節ならではの衣装で出迎えることもありイベントを盛り上げます。育ちの森のイベントは人気があり普段の利用者数が50人程ですが、100名を超えるイベントも多く、親子で楽しんでいます。

図書コーナー

乳幼児向け絵本、大人向けの図書などがそろっています。午前の「絵本の楽し読み」はここで行います。



絵本を楽しんでもらうために「楽し読み」の時間を設けています。

絵本の貸し出しはしませんが、大人の本は2週間で3冊まで借りることができます。家でゆっくり読んでもらうために2週間の設定にしました。

保育事業 一時預かり 保育ルーム



一時預かり
理由を問わず保育を必要
とされる場合にはお子さ
んをお預かりします。
(事前登録が必要です。)

保育ルーム
セミナー受講中にお子さ
んをお預かりします。

保育事業

一時預かりは、1時間600円でお預かりします。家庭的な雰囲気の中で安心して過ごせるような配慮をしています。

病院受診、授業参観、美容院などさまざまな理由で利用されます。子ども1人に対して保育者1名で対応します。利用時間は9時から4時までです。午前10時から13時まで利用の方が多く、長時間の利用も少なくありません。リフレッシュのために一時預かりを利用され、お迎えの時に優しい気持ちで子どもと接することができ、笑顔で帰っていく姿も多く見られました。親が自分の時間をもつことの大切さを広く社会に理解してもらいたいと思っています。現在、一時預かりを受け入れる保育園や施設も増え、育ちの森で対応できない場合は他の施設や保育園を紹介しています。

館内で行うセミナーは保育ルームを設置します。子ども2人に保育者1人で保育します。あらかじめ利用者に渡してある保育カルテにお子さんの様子を記入してもらい担当の保育者が受付の際にカルテを確認します。

セミナー

子育て、リフレッシュ、学年別など多様なセミナーを用意しています。



年間84回のセミナーを企画します。人気のセミナーは受付開始1時間以内で定員になる場合もあります。ノーバディズパーフェクトセミナーを年2回実施します。参加者が自分の想いや悩み相談を安心して話せるように、守秘義務をまもってもらい安心した場でセミナーを行います。その他に学年別セミナー・マタニティセミナーなど実施しています。

サロン 森のサロン パパサロン ベビーサロン マタニティサロン



個と個をつなぐ・・・
保育者同士の自由な
おしゃべりの場です。
森のサロンではテーマ
を設けて、お話したい
人同士が自由に情報交
換しています。

育ちの森では、サロンを実施しています。パパが気軽に参加できるよう月2回土曜日パパサロンを行い、スタッフがコーディネートします。パパと子どものみの入室のためママは本を読んだりゆっくりお茶を飲んだりして過ごします。

森のサロンでは、さまざまなテーマでゆったりとした雰囲気の中で話します。スタッフが1名入り進行します。「トイレトレーニング、卒乳、睡眠」などのテーマで行います。告知は、毎月発行している月のたより「森の広場」で日程を掲載しています。

Teaコーナー

- 大人用にいたたてのコーヒーや日替わりティー、お子さん用に麦茶を用意しています。お代わりは自由です。マイカップの持参をお願いしています。



ティーコーナーは交流の場でもあります。美味しいコーヒーや紅茶を飲みながら話が弾みます、インスタ

ントではない入れ立てのコーヒーや日替わり紅茶, 子ども用の麦茶はムギから湧かしています。お子さんがコップなど倒しても火傷しないよう, 65℃に設定しています。

自己紹介カードをテーブルに置いておきます。

毎月お誕生日イベントでスタッフの生演奏などライブを行います。

相談

相談は随時、館内でどこでもできます。
月曜日の午後は予約相談日です。
電話、メールでの相談も受付けています。



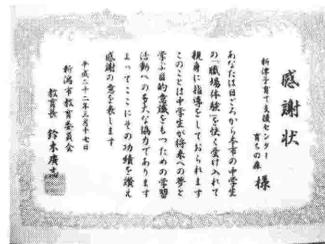
安心して利用者が相談できる環境を整えることが大切です。相談されたことを「わからない」で終らせない、自分がわからなくても他のスタッフはわかるかもしれない、情報源があるかもしれないということで、聞かれたことに関してはスタッフ間で連携をとります

スタッフは、話を聴きながら、区や保健師につなげた方が良い方向に行く場合は、相談者に確認してからつなげます。

相談など、開館している時間内でしか受けることができません。悩みを抱える母親は「話したい」と思っている、時間外だったりすることもあります。

相談できる友だちや仲間同士での支えが大切になってきます。そのために、育ちの森でできることは「つながり」を作り個人と個人をつなぐ場の設定をすることです。セミナーや悩みを共有できるようサロンを開くなどさまざまなことを実施しています。

学校との連携



中学生の「職場体験」協力施設として、中学校の校長先生から推薦され、新潟市教育委員会から感謝状を頂きました。

学校との連携 学生の体験・ボランティア

育ちの森では学生対象で、職場体験、実習、講義、インターンシップ、ボランティア受け入れを実施しています。

中学生の職場体験3日間です。中学生が乳幼児とふれあうことは心を育むうえで大切なことです。育ちの森では、中学生、大学生の受け入れを行っています。

情報発信

ホームページや季刊紙などを発行し、常に最新の情報を提供しています。

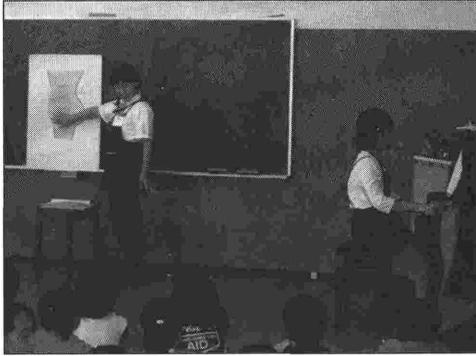


知らない人に知ってもらうためにも情報発信は重要です。ホームページやラジオ・情報誌などで発信しています。

情報誌は無料で4,000部年4回発行しています。新潟市内の100以上の保育園すべてに置いてもらっています。その他公共施設や小児科に置いてもらっています。

何度も読みたくなる誌面づくりを心がけています。ラジオをスタッフが土曜日、第1, 3, 4週担当し子育て情報を伝えています。

学校との連携 出前授業



小学校へ出前授業です。妊娠出産までのお腹の中の胎児の様子を伝えている様子です。子どもたちへ命の大切さ、自分や友だちを大切にしようなど小学生を対象に行っています。

視察

(財)ジョイセフ(家族計画国際協力財団)「アフリカの母子保健、リプロダクティブヘルス研修」参加者*産婦人科医師、医師、保健省など。



育ちの森の紹介のあとは、スポットタイムで手遊びを教えてもらうなど、参加していた親子も大喜びでした。質問コーナーでは、中学生の職場体験など興味をもって聞いてくれました。

出向く支援

出向く支援として、中学校区にひとつ会場を借りて地域に出向き地域の子育てサポーターの方と一緒にスタッフがサロンを開いています。

育ちの森とは違う雰囲気です、スポットタイムや絵本の時間はなくノンプログラムの中、静かな雰囲気です。

静と動で分けることで、選択ができています。育ちの森は、走ったりのびのび遊んでもらうよう環境作りをしています。絵本やスポットタイムなど毎日行われます。サロンは、会場の関係もありのびのび遊ぶことはできませんが、ゆったりとした雰囲気でのんびり過ごすことができます。



新たなチャレンジ

いままで、育ちの森では保育士養成校の実習受け入れが多くありましたが22年9月から23年2月まで看護師を目指す生徒の臨床実習として82名の受け入れをしています。

2日間の実習のなかで、手作りおもちゃを作ります。入院中のお子さんが遊べる玩具、点滴中でも遊べるおもちゃなど。どれも、素晴らしい作品です。その後の小児科の実習でおもちゃが活躍しているようです。

これからは、学生が子育て支援を学べる機会、実習を通して親とのコミュニケーションなどを体験するなど、育ちの森は学生が学ぶ場としての役割も担っていくことが必要と感じました。今後の新たなチャレンジは、看護師、保育士を目指す学生の受け入れをし、多くのことを学んでもらうプログラムを作成していきたいと思っています。

育ちの森はこれからも親子が居心地の良い場で過ごせるよう、子育てで疲れている方が「ほっと」癒されるような空間作りなど心がけていきます。

そして、新たなチャレンジに力を入れていきたいと思っています。